

2016 年度国家予算概算請求閣議決定と福山市予算編成方針 について

安倍晋三内閣が、2016年度の予算編成の基本的な方針となる概算要求基準を、閣議で了解しました。

今回の概算要求基準は、社会保障費のさらなる削減幅の拡大を迫り、その一方で大軍拡を図るものです。

日本の社会保障費は、高齢者人口増や医療技術の進歩などにより、年1兆円程度の「自然増」があるといわれています。

ところが概算要求時点で8300億円の伸びまでは認めていた15年度予算編成より、1600億円も削り込み、6700億円の枠内とするものです。

今日まで、生活保護予算の過去最大規模のカット、年金支給額引き下げ、介護報酬大規模削減、医療・介護の相次ぐ負担増など暮らしの安心と安全を揺るがす制度改悪が次々に行われ、国民は耐えがたい痛みを苦しんでいます。

国民の生活実態を顧みず、「社会保障費削減、先にありき」の乱暴

な姿勢は許せません。

8月31日に締め切った一般会計の要求総額は102兆4千億円程度に膨らみ、3年連続で過去最大を更新したとのことです。

社会保障費は、高齢者人口の増を反映して32兆円余が要求されています。

防衛省は、過去最大の2.2%増5兆911億円を要求しています。

財務省は年末にかけて査定作業に入り、約5兆円の縮減を図ることですが、国に対して福祉予算の確保、軍事費の削減を強く求める必要があります。

以上についてのご所見をお示してください。

答弁＜予算＞

次に、国の新年度予算編成についてであります。

国は、いわゆる「骨太の方針」を閣議決定し、「経済の好循環の拡大」、「潜在的な成長力の強化」、「まち・ひと・しごとの創出」などを課題として位置づけ、予算編成に取り組むこととしております。

これらは、地方にとっても共通の課題であり、解決に向けた施策を着実に実施されることを望むものであります。

質問＜高木議員＞

次に、福山市の新年度予算編成方針について、伺います。

福山市の予選編成は、国の予算編成を踏まえて行われるものではありますが、今日の福山市民の生活実態を踏まえた予算編成とすることが強く求められます。

幸い福山市の財政は、2014 年度普通会計決算見込みによると財政健全化判断比率は、全ての指標が基準を下回るなど、健全性を保ち、実質公債費比率は5・7％で前年度比0・7ポイント改善、将来負担比率7・6％で前年度より15・1ポイント改善。

市債残高も市民一人当たり32万1千円と、前年度より8000円の減となっています。

この健全な財政を、くらし・福祉・教育優先の予算編成に生かし、福山市が市民生活を守るとりでとなるよう、以下を求めるものであります。

- 1、 税の確保について、法人市民税の引き下げは行わないこと、
今後の消費税増税は行わないことを国に求めること。
- 2、 国の医療・福祉予算削減に追随することなく、必要な予算の
確保に努めること。
- 3、 自治体リストラの見直しを行い、必要な正規市職員を確保す
ること。
- 4、 福山市独自の中小企業向け無利子・無担保融資制度を創設す
るとともに中小業者の仕事確保、地域活性化の予算を具体化
すること。
- 5、 少人数学級実現と正規教職員の確保や、教育課題校への市独
自の教職員やソーシャルワーカーを加配する予算を確保する
こと。
- 6、 遅れている校舎の耐震改修、保育園や幼稚園、公的施設の耐
震化予算を大幅に増やすこと。
- 7、 新たな工業団地造成などの大型公共事業推進は抑制し、公共
事業は老朽化した橋の架け替えや補強、ため池改修、生活道
路の維持補修、周辺部への転落防止柵設置、急傾斜地対策や
砂防堤予算を抜本的に強化して、防災に努めること。

8、 子育て支援の重要な要として、乳幼児医療費助成制度の拡充を行うこと。

以上を盛り込むことを求めるものです。

ご所見をお示しください。

答弁＜予算＞

次に、本市の新年度予算編成方針についてであります。

新年度は、市制施行１００周年への対応を始め、小中一貫校の整備、連携中枢都市圏構想の取り組みなど、現在、継続する課題について、着実に推進してまいる考えであります。予算編成方針につきましては、今後、国の動向や新年度の財政見通しなどを把握する中で策定してまいります。

以上